

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2021年3月31日

事業ID:2019521637

事業名:大阪府箕面市における

第三の居場所(A)の運営(最終年度)

団体名:特定非営利活動法人 トイボックス

代表者名:栗田拓 印

TEL:050-3733-5544

事業完了日:2021年3月31日

事業費総額	:	25,806,860円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	860円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	25,806,000円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	1,974,000円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。

なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1.大阪府箕面市における第三の居場所(A)の運営(最終年度)
(1)期間:2020年4月1日~2021年3月31日(週5日、14時半から19時まで開所)
(2)場所:大阪府箕面市
(3)対象:小学校低学年を中心に20名
(4)内容:「第三の居場所」をつくり、そこで社会的相続を補完する。拠点にはスクールソーシャルワーカーや臨床心理士等の専門スキルを備えたスタッフを配置し、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学習意欲の向上を支援する。



(2)事業完了時の事業内容(実績)

1.大阪府箕面市における第三の居場所(A)の運営(最終年度)
(1)期間:2020年4月1日~2021年3月31日(週5日、14時半から19時まで開所)
(2)場所:大阪府箕面市
(3)対象:小学校低学年を中心に20名
(4)内容:「第三の居場所」をつくり、そこで社会的相続を補完した。拠点にはスクールソーシャルワーカーや臨床心理士等の専門スキルを備えたスタッフを配置し、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学習意欲の向上を支援した。

(3)成功したこととその要因

申請時の目標に対応するかたちで、成功したこととその要因について記載する。

②子ども支援の充実(子どもの居場所づくり、食事の提供、生活習慣支援、学習支援、非認知能力形成支援)

要因:b&gみのおの理念や運営方針をスタッフ全員で協議し、それを踏まえてスタッフの持ち味を考慮しながらそれぞれの役割分担を明確にしたこと、また、日々の様々な会議の目的を明確にしたことが挙げられる。

③ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築

要因:コロナにより対面でのケース会定例情報交換会を行うことが、困難な中でも書面において拠点での児童の様子や家庭の状況等をまとめ、小学校、市等関係機関に共有した。緊急事態宣言中の安全対策や感染予防についても行政と密に連携し、適切な対応を行うことができた。下半期は感染拡大の状況を見ながら、活動場所を求める学生ボランティアを積極的に受け入れ、保育・教育・福祉等に携わる人材の育成に努めた。

④子どもの「経験の不足」を解消するようなイベントなどの実施

要因:コロナウィルス感染拡大に伴い、宿泊行事などは中止を余儀なくされたが、遠足行事や親子影絵観劇のイベントにおいては、感染者数の減少の頃合いを見定め、常時マスクの着用と検温、食事中のソーシャルディスタンス等をとったことが挙げられる。

(4)失敗したこととその要因

①拠点利用児童の募集:目標人数20名を達成することができなかった。

要因:コロナ禍において、小学校への訪問や見学の受け入れ等が困難な時期があり、また、家庭からの問い合わせも少ない状況であったため、既存児童のみの受け入れとなった。また、来年度からの行政移管に向けて児童募集の方針を市と協議の上、見直しを行ったため今年度に関しては積極的な募集を行わなかった。

(5)事業内容詳細

別途報告書を添付する。

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

①拠点利用の児童の募集(2019年10月時点で14名が登録しているところ、2020年度9月末時点で18名、年度末迄に20名とする)

②児童への居場所、食事、生活習慣支援、学習支援などの安定的な提供

③ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築

④子どもの「経験の不足」を解消するようなイベントなどの実施

(2)目標の達成状況【700文字以内】

入力文字数	679	文字数チェック	OK
1の達成状況…定員20名のところ在籍10名(2021年3月現在)となった。 2020年9月まで14名の在籍だったが、一部家庭状況に変化があり、転居に伴って児童が退室となった。 コロナの影響により、学校との定例ミーティングの機会がなかなかつくれず、対象となる児童の発見、居場所への繋ぎをスムーズに行うことができなかった。 また、来年度から運営が市へ移管されることを踏まえ、新規児童募集については市と協議の上現在進めており、今年度については積極的な募集に至らなかった。			

2の達成状況…コロナにより緊急事態宣言に伴い市と学校と相談の上、4月から5月の期間は閉所をした。開所後も、感染対策として手洗い消毒、常にマスクの着用を行った。感染者数の減少を見計らい、着席時にパーテーションを設置することを条件として夕食の提供を再開した。

3の達成状況…本事業に興味がある大学生が数名関わった。福祉や教員に関心がある学生が多く、子どもたちへの関わり方も丁寧で、一部のスタッフミーティングにも自主的に参加していただいた。当初はシニアの方々と連携を検討していたが、コロナ禍でのリスクを考え大学生を中心に募集をかけた。今回できた学生ボランティアとの繋がりも継続しつつ、シニアの方々と連携も次年度につなげていきたい。

4の達成状況…宿泊行事などを予定していたが、コロナウィルス感染拡大をうけ去年に引き続き中止を余儀なくされた。しかし、感染者数の減少傾向を見定め、近場への遠足、コンサートホールでの体験型演劇や休日に親子影絵観劇など安全に行えるイベントを企画し実施した。

3.事業実施によって得られた成果

第三の居場所への通所以前、通所以後では児童の様子に変化がみられる(宿題の提出率、授業中の態度、暴言やきつい言葉遣いなどの減少)といったご意見を引き続き学校や家庭から頂いている。また、箕面拠点で力を入れている「生き抜く力」育成の点でも、成果が見られている。別紙に取り組んできたプログラムと共に児童の様子について、詳細を記載する。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

新たな課題として
行政移管に伴い、来年度の人件費予算の減少が決定し、スタッフ体制・人員配置に変更が余儀なくされることが想定される。みのお拠点が重きを置き力を入れてきた「生き抜く力」育成には、子どもとの密な関わりが切り離せない条件となる。ただ放課後に来所して過ごすだけの場所ではなく、人との関わりの中で得られるたくさんの気づきや挑戦意欲などを育む居場所づくりを、いかに限られた資源で実現するかが今後の課題になる。
非常勤スタッフやボランティアの募集などで人員を確保し、毎日の取り組みである「わくわくたいむ」の頻度を再検討するなどして、子どもたちが安心して挑戦できる居場所づくりを考えていきたい。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

活動報告書

(2)事業完了時の成果物名称

活動報告書



(3)未作成となった要因

契約時の事業成果物で作成していないものがある場合は理由を記載してください。

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください→ https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/03/gra_gui_01-1.pdf（なお、事情により、公開が困難な成果物に関しては、表紙のアップロードをお願いいたします。）

上記で登録したURLをご記載ください。

収支計算書

(2020年 4月 1日から 2021年 3月 31日まで)

団体名： 特定非営利活動法人トイボックス
 事業名： 大阪府箕面市における第三の居場所(A)の運営

(収入の部)

(単位：円)

費目	予算額 (A)	決算額 (B)	受入済額 (C)	未収額 自動計算(A-C)	助成金返還見込額 自動計算(A-B)
①日本財団助成金収入	27,780,000	25,806,000	27,780,000		1,974,000
②自己負担	0	860	860		
③収入合計	27,780,000	25,806,860	27,780,860	0	1,974,000

(支出の部)

(単位：円)

費目	日本財団承認済の予算額 (x)	決算額 (y)	支出済額 (z)	未払額 自動計算(y-z)	補足説明、備考
人件費	21,584,000	21,584,000	21,584,000		
印刷製本費	60,000	0	0		移管に伴い、パンフレット等の仕様について市と協議を行ったため増版しなかった
旅費交通費	330,000	250,842	250,842		
新聞図書費	120,000	101,944	101,944		
車両燃料費	120,000	46,814	46,814		
通信費	420,000	154,648	154,648		
消耗品費	2,790,000	1,573,960	1,573,960		4月～2か月間、学校休校に伴い、市と協議の上開所したため、食材費等がかからなかった。コロナの影響で新規児童の入所がなかった。
教材体験学習費	0	0	0		
修繕費	100,000	0	0		
水道光熱費	180,000	180,000	180,000		
リース料	753,600	738,792	738,792		
保険料	130,000	15,000	15,000		
支払手数料	5,000	7,920	7,920		
研修費	200,000	146,810	146,810		
間接経費	996,000	996,000	996,000		
支出合計(端数調整前)	27,788,600				
端数調整欄	8,600				
④支出合計(端数調整後)	27,780,000	25,796,730	25,796,730	0	

※助成金・負担金額の確定は監査終了後、当財団よりご連絡いたします。

※予算額に対し、決算額が下回った場合、助成金の返還が生じます。

大阪府箕面市における第三の居場所(A)の運営(最終年度) 事業で取り組んだこととその成果

特定非営利活動法人 トイボックス

1) 完了報告書(5) 事業内容詳細

① 非認知能力の育成=わくわくたいむ

みのお拠点では子どもたちが育むべき非認知能力を、生き抜く力と定義し、その力の育成のため、1年目より継続して、豊富な体験の機会を提供する時間を毎日設けてきた。(名称: わくわくたいむ)

新型コロナウイルス感染症の流行により、今年は夏祭りに行けなかった子どもが多くいた。そこで子どもと話し合い、拠点内で感染症予防対策を取りながら、ミニ夏祭りを企画することとなった。高学年が屋台の人を務めるなどして、子どもたちが一丸となってイベントを作り上げていた。(写真 1,2) このようなスタッフと子どもで共につくりあげるプログラムを通して、自ら考えて取り組む楽しさを知り、自主性や挑戦意欲が育まれた。

写真 1

写真 2



また、子どもたちの「経験の不足」を解消するために、幅広く知ることも重要視している。初めて触る 3D プリンタを、スタッフのサポートを受けつつ 1 から子どもたちでセットアップを完了させ、ものを作り出すことに挑戦した。細かい文字の説明書を見ながら子どもたちも苦戦していたが、粘り強く最後までやり抜くことができた。(写真 3)

写真 3



②コロナ禍における児童・家庭への支援

緊急事態宣言を受け、やむを得ず閉所をしていた期間は、週に数回程度、各家庭への電話・メール連絡を通して、子どもたちや家庭の様子、困りごとについての聞き取りなどを行った。自粛期間中、保護者が休業とならなかった家庭では、自宅で子どもだけで過ごす状況が生まれることもあったため、スタッフが家庭訪問しインターホン越しにコミュニケーションをとり見守りを行うなど、保護者と相談しながら居場所として可能な限りのサポートを実施した。

また、豊富な機会提供をねらいとして、安全なセキュリティ管理のもと、わくわくたいむの動画版(名称:わくわくちゃんねる)を作成した。子どもたちが自宅でも取り組めるように、簡単で安全な調理の仕方や工作手順、スタッフからの動画メッセージなどを配信した。保護者からは、自粛期間での生活が長引く中、子どもたちがわくわくちゃんねるを見て元気をもらっているなどの声をいただいた。

学習面においては、長い休校期間で学習習慣を保つことが難しいとの保護者からの声を受け、机で書くことのきっかけづくりのために「お手紙交換」を実施した。

宣言解除後に居場所を再開してからは、長引く休校期間やオンライン授業によって、通常時以上に学習面での格差が生まれており、宿題等のフォローを通して、基礎学力の定着や安心して勉強に取り組めるフォロー体制づくりに力を入れた。また、マスク着用で表情が見えにくいことから起こるコミュニケーションの取りづらさが特に低学年の子どもたちに見られたため、居場所内ではフェイスシールドやパーテーションを活用して安全に配慮しながら子どもたちの不安を解消するよう工夫を行った。

2)得られた成果

1)で述べたさまざまな取り組みを通して、コロナ禍でも居場所として可能な限りの家庭支援を実施し、保護者から喜びの声を数多くいただくことができた。また、子どもたち自身も、外出できない時期だからこそできることを見だし、前年度以上に人とのふれあいを大事にするなど、大きな成長がみられた。